

駿河湾の深海魚 (17)

センハダカ (その2)

久保田 正 ・ 佐藤 武

センハダカ (*Diaphus suborbitalis*) は、ハダカイワシ科魚類のハダカイワシ属に含まれる種類中では中型の大きさです。駿河湾内で行われている年2回のサクラエビ漁期にはハダカイワシ類が季節や場所によって大量にたびたび入網することがあり、本種は優先種の1種です。本種は、湾内で夏に産卵して秋には体長 15 ~ 20mm の稚魚となり、翌年1月には体長 30 ~ 35mm そして7月には 50 ~ 55mm と急激に成長し、その後は徐々に成長速度は弱まり、最大で 67mm、寿命は 2.5 歳とされています。図 1 は、当湾における本種の成長曲線を示しています。また、当湾における本種の産卵習性に関する知見は十分に得られていません。

サクラエビと混獲されるハダカイワシ類の優先する 6 種について、餌生物の組成を比較しました (図 2)。図中では 6 種の体長のモードの小から大の順に左から右へ配列しています。餌生物として出現する生物群は、サクラエビ、ユメエビ類、甲殻類幼生、介形類、オキアミ類、かいあし類、皮のう類などです。それによると、ハダカイワシを除く 5 種に共通する優先の餌生物は、かいあし類であり、ハダカイワシではサクラエビです。センハダカ、ゴコウハダカ、ホソトンガリハダカ、ハダカイワシなどは、特にかいあし類の *Calanus*, *Rhincalanus*, *Euchaeta*, *Candacia*などを主な餌生物とし、小型のイワハダカやヒロハダカでは *Oncaea* です。体長モードの大きいハダカイワシ、ホソトンガリハダカ、ゴコウハダカはかいあし類のほかサクラエビやオキアミ類を餌としていて空胃率は高い傾向にあるのに対し、中型のセンハダカ、小型のヒロハダカやイワハダカは小型のかいあし類や皮のう類を餌として空胃率は低い傾向にあります。

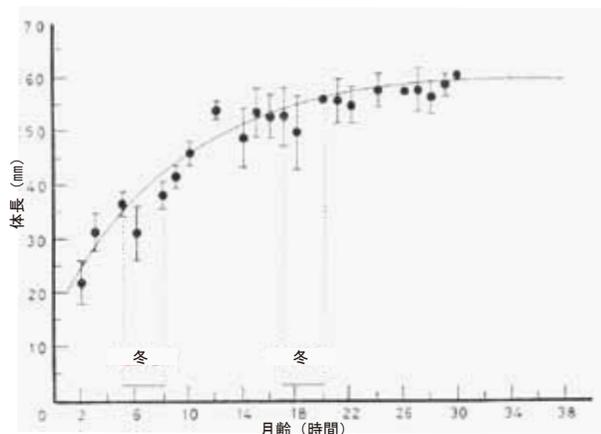


図 1. 駿河湾におけるセンハダカの成長曲線 (Go, 1977 を改変)

黒丸は、調査個体の平均体長そしてバーは標準偏差を示す

このように大きさの異なる異種間では餌生物の組成が大きく違ってきます。この 6 種は、甲殻類プランクトンを主体とした捕食者です。

一方、センハダカの被捕食者としては、駿河湾内から得たミツクリエナガチョウチンアンコウ (体長 117mm) が、5 個体 (体長 35 ~ 45mm) を捕食していた例があります (本誌第 32 号参照)。

また、三保の海岸に毎年冬春季に魚類や甲殻類などの深海生物が生きたまま打ちあがりますが、2002 年秋から 2005 年春までの三年間の調査で打ち上げられたハダカイワシ類 16 種のうち、センハダカの頻度および個体数は共に第 2 位でした。因みに第 1 位の種はヒロハダカ (*Diaphus garmani*) でした。

種類	イワハダカ	ヒロハダカ	センハダカ	ゴコウハダカ	ホソトンガリハダカ	ハダカイワシ
調査個体数	660	490	1,230	50	490	156
餌生物	10 20 30 40	10 20 30 50	10 20 30 50	10 20 30 40	10 20 30 40	10 20 30 40
空胃						
サクラエビ						
ユメエビ類						
甲殻類幼生						
介形虫						
端脚類						
オキアミ類						
<i>Euphausia similis</i>						
アミ類		5.5	8.7			
かいあし類						
<i>Calanus</i>						
<i>Rhincalanus</i>						
<i>Rhincalanus</i>						
<i>Euchaeta</i>						
<i>Candacia</i>						
<i>Oncaea</i>						
<i>Corycaeus</i>						
毛類						
皮のう類						
魚類						

図 2. サクラエビ漁場から得たハダカイワシ類 6 種の餌生物組成の比較 (久保田, 1984 から引用)

各生物群の出現率は、調査個体数に対する値です